

## V. ENEA-計算プログラム・ライブラリーからの入手資料について

森口欽一 (日本原子力研究所)

日本がOECD傘下の欧州原子核エネルギー機関 (ENEA) の一部門であるENEA計算プログラム・ライブラリーの構成員に参加したのは1966年である。

現在まで、欧州および合衆国の計算コード約100件近くと大量のドキュメントがENEA計算プログラム・ライブラリーより原研の計算センターに送付されてきた。それらの全資料リストは直ちに日本の諸原子力機関に送付され研究開発の利用に供されてきた。

さて、ENEAの計算プログラム・ライブラリーは加盟各国から寄せられたプログラム・コードの整備の他に、ライブラリーの公報活動および利用の手引きとして幾つかの出版物を出している。

まずオーに1964年11月にオー号を出して以来今日まで7号迄出版されてきた。

### ENEA NEWS LETTER

は新着のコード・リスト、各国のコードの開発状況、プログラム・コードの内容の紹介、コード・リスト、各国のENEA・ライブラリー参加機関ならびに連絡員の氏名リスト等の最近情報がのこっている。

次にENEA計算プログラム・ライブラリーの全プログラム・コードのアブストラクト集として

Programme Abstracts ENEA, (1967)

〃 〃 USCC ( 〃 )

〃 〃 RSIC ( 〃 )

が、また参加機関の計算機種種の索引集として

Computing Facilities (1965, 6)

がある。

最後にENEA・ライブラリーの簡単でしかも有用な索引集として

KWIC INDEX of Nuclear Programmes (1968 4月)

が不定期に出版され up-to-date の情報をうるのに大いに利用されている。

なお以上のENEA・ライブラリーの出版物は各参加機関へ連絡員を通じて一部づつ配布されている。ちなみに日本では大学4を含む18の機関が現在まで登録されている。

(ENEA計算プログラム・ライブラリーの全資料は公開されており、外部で利用しえない方は原研の計算センターに御照会下さい。)